

日本中世の 社会と寺社

細川涼一著

【二〇一三年二月刊行】

▼A5判・四五〇頁／定価 八、〇八五円(税5%込)

ISBN978-4-7842-1670-3

律宗・律僧が中世社会で果たした役割を中心に、女性や被差別民など、歴史の主流からこぼれ落ちがちなものたちへ常にまなざしを注ぎ、境界領域から歴史を問いつけてきた著者の主要な研究成果を一書にまとめる。

序論

第一章 黒田俊雄 『日本中世の国家と宗教』

第二章 網野善彦 『中世東寺と東寺領荘園』

I 中世律宗と公武政権

第三章 中世律宗と国家―鎌倉末期の政治・社会状況の中で―

第四章 中世における戦争と平和

―蒙古襲来における叡尊と南北朝の内乱における楠木正儀―

第五章 叡尊の鎌倉下向と鎌倉幕府の女性

第六章 三条大宮長福寺尊鏡と唐招提寺慶円
―後醍醐天皇と中世律僧―

II 中世社会と律僧

第七章 忍性の生涯

第八章 覚如と定舜―叡尊弟子の入宋僧―

第九章 西琳寺惣持と尼―中世律宗と「女人救济」―

第十章 唐招提寺釈迦如来像像内納入文書と女性・虫・非人

付論1 幕末の女性とベットとしての狎

―会津戊辰戦争の照姫と『柳橋新誌』の柳橋の芸者―

III 中世の北野社と石清水八幡宮

第十一章 中世の北野社と宮仕沙汰承仕家

―京都橋大学所蔵「北野社宮仕沙汰承仕家文書」の補任状から―

第十二章 『北野天神縁起』と鎌倉時代の北野社

―宮仕と大座神人を中心に―

第十三章 西京散所と北野社

第十四章 石清水八幡宮の柳禅尼如鏡と叡尊

IV 源義経の妻と母

第十五章 河越重頼の娘―源義経の室―

第十六章 常盤―源義経の母―

付論2 白拍子の実相―静を中心に―

ほそかわ・りょういち…1955年生。中央大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。現在、京都橋大学文学部教授。主要著書……『中世の律宗寺院と民衆』（吉川弘文館、1987年）『中世の身分制と非人』（日本エディタースクール出版部、1994年）『中世寺院の風景』（新曜社、1997年）ほか。

思文閣出版

〒605-0089 京都市東山区元町355 tel.075-751-1781 fax.075-752-0723
http://www.shibunkaku.co.jp E-mail:pub@shibunkaku.co.jp

注文票		発行: 思文閣出版		(京都 取引コード 3402)	
冊数	冊	日本中世の社会と寺社		本体7,700円(税別)	ISBN978-4-7842-1670-3
お名前		tel			
		e-mail			
ご住所	〒				
送本方法	<input type="checkbox"/> 書店経由 (このちらしを書店にお渡し下さい) <input type="checkbox"/> 代 引(書籍代+送料を現品と引き替えにお支払い)				
			本書HPのQRコード		書店番線印

風俗絵画の文化学Ⅱ 虚実をうつす機知

松本郁代・出光佐千子・彬子女王編

美術史・歴史学・文学・文化人類学等を専門とする研究者が、それぞれの専門性を生かした風俗絵画分析を進め、粘り強く議論を繰り返して生まれた学際的的文化研究。絵画の制作に関わった人々の複雑に絡み合う視線の交錯を文化的に考察し、そこにあらわれた「機知」—虚実を往来する機微や感性の「かたち」—を明らかにしていく15篇。

▶A5判・450頁／定価7,350円 ISBN978-4-7842-1615-4

祇園祭の中世 室町・戦国期を中心に

河内将芳著

室町期の都市京都を文字どおり代表する祭礼であった祇園祭(祇園会)を通して、中世京都を考える。祇園会の見物という行為の検討により、その特質をうきぼりにし、さらに神輿渡御の神幸路・御旅所と都市空間との関係、戦国期の祇園祭の再興の意味や、「鬨取」の実態についても解き明かす。

▶A5判・360頁／定価4,725円 ISBN978-4-7842-1631-4

近世京都の都市と民衆

鎌田道隆著

思文閣史学叢書

著者が京都市史編纂所時代におこなった京都市内全域の旧家・会所・小社寺などの民間史料調査をもとに、戦国から幕末維新までの京都市論を展開。【内容】戦国期における市民的自治について／初期幕政における京都と江戸／慶長・元和期における政治と民衆／町の成立と町規制／京都における十人組・五人組の再検討 など

▶A5判・390頁／定価8,190円 ISBN4-7842-1034-2

※中世都市共同体の研究

小西瑞恵著

思文閣史学叢書

陸路水路の要衝大山崎を分析し国家権力と密接な関係をもつ商業的の共同体という観点から論じた大山崎研究をはじめ、堺都市論、自治都市としての成立過程と内部構造について新たな都市像を示した大湊研究等、都市共同体の全体構造や多様な都市住民の実態に迫る。

▶A5判・340頁／定価6,720円 ISBN4-7842-1026-1

※「洛中洛外」の社会史

川嶋将生著

思文閣史学叢書

鴨川の景観変遷、都市としての京都を生みだした町人の信仰・遊楽や会所への関わり、被差別民の動向、京郊に展開した村落の諸相、さらに落書きの系譜にみられる社会や政治に対する人々の認識など、「洛中洛外」の時代に取り組んだ成果。

▶A5判・348頁／定価6,825円 ISBN4-7842-1003-2

京都文化の伝播と地域社会

源城政好著

思文閣史学叢書

京都とその近郊の中世文化史に取り組んできた著者が、これまでの成果をまとめた一書。在地(荘園)をめぐる動向、公武の文芸交流と伝播、さらには河原者・声聞師の被差別民衆の諸相と室町・戦国期の人物論を収録。【内容】Ⅰ 地域社会の躍動／Ⅱ 公武の文芸交流／Ⅲ 被差別民衆の諸相／Ⅳ 乱世を生きた人々 付録：三手文庫書籍目録(翻刻)

▶A5判・400頁／定価8,190円 ISBN4-7842-1325-2

中世京都の空間構造と礼節体系

桃崎有一郎著

貴人と牛車ですれ違う場合の正しい作法は? 参内するときはどこで牛車を降りればよいのか? 中世の京都で実践された礼節体系の考察を通じて、中世京都の空間構造を明らかにし、室町殿権力の形成・展開過程をも論ずる。

▶A5判・584頁／定価7,560円 ISBN978-4-7842-1502-7

南都寺院文書の世界

勝山清次編

東大寺宝珠院(法華堂文書・宝珠院文書)と興福寺一乗院坊官二条家(一乗院文書・一乗院御用日記)に伝来した文書の3年間に渡る調査・研究の成果をまとめた一書。多くは、これまで利用されていなかった文書を用いた論考であり、東大寺・興福寺を中心とした南都寺院の寺領やネットワークに関する研究をこれらの史料をもとに展開する。

▶A5判・350頁／定価6,090円 ISBN978-4-7842-1369-6

※風俗絵画の文化学 都市をうつすメディア

松本郁代・出光佐千子編

中世から近世における風俗絵画のメディア性に着目し、そこに描かれなくなったものを持つ意味や享受者の視点、都の社会における聖と俗の姿、風俗絵画に表された芝居空間や行事のかたちが年代とともにどのように姿を変えたのか、「風俗画」が近代に至りいかなる解釈を得て「風俗画」となり得たのか、など様々な視点からアプローチする。

▶A5判・368頁／定価6,825円 ISBN978-4-7842-1469-3

※京都の都市共同体と権力

仁木宏著

思文閣史学叢書

中世京都の都市構造モデルを前提に、その変容のなかから町(ちょう)の成立を読み解く。自力救済社会における武家と都市民の対峙が、やがて公儀を創出し、都市共同体を確立させることを明らかにする。中近世移行期における自治、共同体、権力の葛藤を正面から見据え、都市の本質を具体的に、理論的に分析した一書。

▶A5判・332頁／定価6,615円 ISBN978-4-7842-1518-8

※中世後期の寺社と経済

鍛代敏雄著

思文閣史学叢書

中世後期から近世への移行期は日本史上の社会的転換期とされ、中世寺社勢力が衰退し戦国期宗教が台頭する時期でもあった。この時期に政治的・経済的に大きな力を持った石清水八幡宮と本願寺教団を主な対象とし、両者の比較も行いつつ、従来、寺領・社領を中心に論じられてきた寺社と経済をめぐる問題に商業史・交通史・都市史の視角から迫り、中世後期の社会経済の変革の実態を具体的に描き出す。

▶A5判・404頁／定価8,400円 ISBN4-7842-1020-2

室町・戦国期研究を読みなおす

中世後期研究会編

踏まえる、拓く—若手研究者が提示する研究の過去・現在・未来
Ⅰ 政治史を読みなおす [1 公武関係を読みなおす] [2 都鄙関係を読みなおす] / Ⅱ 社会史を読みなおす / Ⅲ 経済史を読みなおす / Ⅳ 宗教史を読みなおす

▶A5判・408頁／定価4,830円 ISBN978-4-7842-1371-9

中世京都文化の周縁

川嶋将生著

思文閣史学叢書

「近世都市」へと変貌を遂げていく中世京都の姿を洛中洛外図や祇園会の記録を通し、また声聞師・庭者など室町文化を支えた都市周縁の非人たちの動向と合わせて論じ、上層町衆と新興町人との世代交代という中世から近世への明らかな時代転換が見られる寛永文化に目を注ぐ。南北朝から江戸初頭にかけて「都市」京都の全体像を捉えた好著。

▶A5判・430頁／定価8,190円 ISBN4-7842-1071-1

※散所・声聞師・舞々の研究

世界人権問題研究センター編

部落史・身分制・芸能史研究などによって散所問題は様々な視点から取り上げられてきた。本書では、散所の人々が携わった芸能あるいは陰陽道などとの関わりを含めて文献・絵画・地図の綿密な分析を試み、洛中・山城・近江地域に所在した地域散所研究の到達点を提示。未解明の課題の究明と、新しい研究成果を散所研究として統合することを旨として、同センターでとりこまれた共同研究の成果。

▶A5判・590頁／定価8,610円 ISBN4-7842-1219-1

※中世寺院社会の研究

下坂守著

思文閣史学叢書

中世社会において甚大な影響を及ぼした比叡山延暦寺を主たる対象とする。惣寺一僧侶たちによる合議一を基礎単位とした中世寺院の広がりを寺院社会として捉え、その歴史的な意味を考察。惣寺についてはもとより、惣寺を基盤として形成されていた寺院社会、ひいては中世社会の本質を探る、著者初めての論文集。

▶A5判・598頁／定価10,290円 ISBN4-7842-1091-1

※東大寺文書を読む

綾村宏・永村眞・湯山賢一編

古代を今に伝える東大寺文書(平成10年国宝指定)より50余点を選びその魅力を紹介。各文書には第一線の研究者による解説と釈文を付す。文書写真は大型図版で掲載、カラー口絵4点を付す。【構成】文書の伝来／勧進と檀越／寺家と寺領／法会と教学／文書の姿

▶B5判変・192頁／定価2,940円 ISBN4-7842-1074-1

インタビュー・エッセイや新刊情報を掲載した広報誌『鴨東通信』を年4回無料でお送りしています。
電話・fax・Eメールでお申し込み下さい。※印の書籍は外函・カバーに汚れ・傷みがございます。